

# 「技術士に求められる資質能力」の解説

2014年9月

国際委員会 IEA 対応 WG

## I 技術士に求められる資質能力

「技術士に求められる資質能力」（以下、「技術士 PC」という。）は、2014年3月に、文科省技術士分科会により表1に示すとおり制定された。その基本的な考え方は以下のとおりである。

- (1) 技術士 PC は、技術士試験並びに APEC エンジニア及び IPEA 国際エンジニアの国際資格登録のための審査基準、並びに技術士の継続研鑽の達成基準として用いられる。
- (2) 技術士 PC は、IEA の「専門職としての知識・能力（エンジニア）」（以下、「IEA PC」という。）に整合する（表2参照）とともに、日本における技術士試験並びに APEC エンジニア及び IPEA 国際エンジニア資格審査の実状に適応する編成と記述内容とされている。
- (3) 技術士 PC は、上記(2)に適うように、その項目は、知識、問題解決、スキル（問題解決以外）、行動原則（倫理）の類別順に整序し編成されている。

表1 技術士に求められる資質能力（技術士 PC）

前 文	
<p>技術の高度化、統合化等に伴い、技術者に求められる資質能力はますます高度化、多様化している。これらの者が業務を履行するために、技術ごとの専門的な業務の性格・内容、業務上の立場は様々であるものの、(遅くとも)35歳程度の技術者が、技術士資格の取得を通じて、実務経験に基づく専門的学識及び高等の専門的応用能力を有し、かつ、豊かな創造性を持って複合的な問題を発見して解決できる技術者（技術士）として活躍することが期待される。</p> <p>このたび、技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）について、国際エンジニアリング連合（IEA）の「専門職としての知識・能力」（プロフェッショナル・コンピテンシー、PC）を参考にしながら、以下の通り、キーワードを挙げて示す。これらは、別の表現で言えば、技術士であれば最低限備えるべき資質能力である。</p> <p>技術士はこれらの資質能力をもとに、今後、業務履行上必要な知見を深め、技術を修得し資質向上を図るように、十分な継続研さん（CPD）を行うことが求められる。</p>	
1. 専門的学識	1) 技術士が専門とする技術分野（技術部門）の業務に必要な、技術部門全般にわたる専門知識及び選択科目に関する専門知識を理解し応用すること。
	2) 技術士の業務に必要な、我が国固有の法令等の制度及び社会・自然条件等に関する専門知識を理解し応用すること。
2. 問題解決	1) 業務遂行上直面する複合的な問題に対して、これらの内容を明確にし、調査し、これらの背景に潜在する問題発生要因や制約要因を抽出し分析すること。
	2) 複合的な問題に関して、相反する要求事項（必要性、機能性、技術的実現性、安全性、経済性等）、それらによって及ぼされる影響の重要度を考慮した上で、複数の選択肢を提起した上で、これらを踏まえた解決策を合理的に提案し、又は改善すること。

3. マネジメント	1) 業務の計画・実行・検証・是正（変更）等の過程において、品質、コスト、工期（納期）及び生産性とリスク対応に関する要求事項、又は成果物（製品、システム、施設、プロジェクト、サービス等）に係る要求事項の特性（必要性、機能性、技術的実現性、安全性、経済性等）を満たすことを目的として、人員・設備・金銭・情報等の資源を配分すること。
4. 評価	1) 業務遂行上の各段階における結果、最終的に得られる成果やその波及効果を評価し、次段階や別の業務の改善に資すること。
5. コミュニケーション	1) 業務履行上、口頭や文書等の方法を通じて、雇用者、上司や同僚、クライアントやユーザー等多様な関係者との間で、明確かつ効果的な意思疎通を行うこと。 2) 海外における業務に携わる際は、一定の語学力による業務上必要な意思疎通に加え、現地の社会的文化的多様性を理解し関係者との間で可能な限り協調すること。
6. リーダーシップ	1) 業務遂行にあたり、明確なデザインと現場感覚を持ち、多様な関係者の利害等を調整しとりまとめることに努めること。 2) 海外における業務に携わる際は、多様な価値観や能力を有する現地関係者と共に、プロジェクト等の事業や業務の遂行に努めること。
7. 技術者倫理	1) 業務遂行にあたり、公衆の安全、健康及び福利を最優先に考慮した上で、社会、文化及び環境に対する影響を予見し、地球環境の保全等、次世代に渡る社会の持続性の確保に努め、技術士としての使命、社会的地位及び職責を自覚し、倫理的に行動すること 2) 業務履行上、関係法令等の制度が求めている事項を遵守すること。 3) 業務履行上行う決定に際して、自らの業務及び責任の範囲を明確にし、これらの責任を負うこと

【注】原文の各項目には番号は付されていないが、引用の便宜上これを付した。

表2 「技術士 PC」の「IEA PC」への対応

項目番号	専門職としての知識・能力（エンジニア）（IEA PC）	技術士に求められる資質能力（技術士 PC）
1	普遍的知識を理解し応用する：優れた実践に必要な汎用的な原理に関する高度な知識を理解し応用する。	1.1) 技術士が専門とする技術分野（技術部門）の業務に必要な、技術部門全般にわたる専門知識及び選択科目に関する専門知識を理解し応用すること。
2	特定の国又は地域に関する知識を理解し応用する：自分の活動する国又は地域に特有の優れた実践の基礎となる汎用的な原理に関する高度な知識を理解し応用する。	1.2) 技術士の業務に必要な、我が国固有の法令等の制度及び社会・自然条件等に関する専門知識を理解し応用すること。
3	問題分析：複合的な問題を明確にし、調査し、及び分析する。	2.1) 業務遂行上直面する複合的な問題に対して、これらの内容を明確にし、調査し、これらの背景に潜在する問題発生要因や制約要因を抽出し分析すること。

4	<b>解決策のデザインと開発</b> ：複合的な問題に対する解決策をデザインし、又は開発する。	2.2)複合的な問題に関して、相反する要求事項（必要性、機能性、技術的実現性、安全性、経済性等）、それらによって及ぼされる影響の重要度を考慮した上で、複数の選択肢を提起した上で、これらを踏まえた解決策を合理的に提案し、又は改善すること。
5	<b>評価</b> ：複合的な活動の成果及びインパクトを評価する。	4.業務遂行上の各段階における結果、最終的に得られる成果やその波及効果を評価し、次段階や別の業務の改善に資すること。
6	<b>社会の保全</b> ：複合的な活動の、合理的に予測できる社会、文化及び環境に対する影響を全般的に認識し、持続可能性保持の必要性に配慮する；社会の保全が最優先事項であることを認識している。	7.1)業務遂行にあたり、公衆の安全、健康及び福利を最優先に考慮した上で、社会、文化及び環境に対する影響を予測し、地球環境の保全等、次世代に渡る社会の持続性の確保に努め、技術士としての使命、社会的地位及び職責を自覚し、倫理的に行動すること。
7	<b>法と規則</b> ：自分の活動において、全ての法及び規則の要求する事項を満たし、公衆の健康と安全を守る。	7.2)業務履行上、関係法令等の制度が求めている事項を遵守すること。
8	<b>倫理</b> ：倫理的に行動する。	7.1)…技術士としての使命、社会的地位及び職責を自覚し、倫理的に行動すること。
9	<b>エンジニアリング活動のマネジメント</b> ：一つ又は複数の複合的な活動の一部又は全体をマネジメントする。	3.1)業務の計画・実行・検証・是正（変更）等の過程において、品質、コスト、工期（納期）及び生産性とリスク対応に関する要求事項、又は成果物（製品、システム、施設、プロジェクト、サービス等）に係る要求事項の特性（必要性、機能性、技術的実現性、安全性、経済性等）を満たすことを目的として、人員・設備・金銭・情報等の資源を配分すること。
10	<b>コミュニケーション</b> ：自分の活動の過程において、他の人達と明瞭にコミュニケーションを行う。	5.1)業務履行上、口頭や文書等の方法を通じて、雇用者、上司や同僚、クライアントやユーザー等多様な関係者との間で、明確かつ効果的な意思疎通を行うこと。
11	<b>継続研鑽</b> ：自分の知識・能力を維持し向上するために十分な継続研鑽(CPD)を行う。	（前文） 技術士はこれらの資質能力をもとに、今後、業務履行上必要な知見を深め、知識及び技術を修得し資質向上を図るように、十分な継続研さん（CPD）を行うことが求められる。
12	<b>判断</b> ：複合的な活動に当たり、要求事項が競合することや知識の不完全なことを考慮して、複合性を把握し代案をアセスメントする。このような活動の過程で、確かな判断を行う。	2.2)複合的な問題に関して、相反する要求事項（必要性、機能性、技術的実現性、安全性、経済性等）、それらによって及ぼされる影響の重要度を考慮した上で、複数の選択肢を提起した上で、これらを踏まえた解決策を合理的に提案し、又は改善すること。

13	<b>決定に対する責任</b> ：複合的な活動の一部又は全てに関して行う決定に対して責任を持つ。	7.3)業務履行上行う決定に際して、自らの業務及び責任の範囲を明確にし、これらの責任を負うこと
----	--	---

## II 「技術士に求められる資質能力」に関する解説

「技術士に求められる資質能力」とは、技術士がその業務遂行に当り求められる資質能力である。

「技術士の業務」は、下記の技術士法における技術士の定義の下線部分に相当する業務であり、IEA PCが規定するエンジニアの行う複合的なエンジニアリング活動に該当する（「表 5 複合的な業務の定義」）。

### 【技術士法における技術士の定義】

「技術士」とは、技術士の名称を用いて、科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者をいう。

「技術士の業務」の関与の対象とされるものは、製品/生産物、施設、システム、プロジェクト、サービス、工程等があり、関与の範囲は、これらの、設計段階、設計に基づく実現（製造、生産、建設、構築等）段階及び実現されたものの運用/供用段階に及ぶ。技術士は、これらの段階全てにおいて様々な形で重要な役割を担うが、特に高度な知識や創造力を求められることの多い設計段階業務において技術士の果たす役割が重要である。

### 1. 専門的学識

#### (1) 技術士が専門とする技術分野（技術部門）の業務に必要な専門知識

技術士の業務（前述の「まえがき」参照）に必要な知識の内容は、下記の「IEA 卒業生としての知識・能力 5.1」の「知識プロフィール」（表 3）を参考にする。この大学卒業の段階で身に付けておくべきとされる知識の内容は、技術士としても当然必要とされるものである。

表 3 知識プロフィール

No.	知識プロフィール
WK1	当該専門分野に適用できる自然科学(例えば、計算ベースの物理)の体系的かつ理論ベースの理解。
WK2	当該専門分野に適用可能な解析やモデル化を支援する概念ベースの数学、数値解析、統計学、一般的な内容のコンピュータ・情報科学の体系的知識。
WK3	当該専門分野に必要なエンジニアリング基礎(専門基礎科目)に関する体系的かつ理論ベースの知識の形成。
WK4	当該専門分野における確立した実務領域に必要な様々な理論的枠組及び知識体を与える専門的知識;そのほとんどは当該専門分野における最先端のものである。
WK5	一つの専門分野におけるエンジニアリング・デザインの基礎となる知識(法規制、各種基準類、設計手順、経験や設計事例から得られた情報等)。
WK6	当該専門分野において一般に又は法的に認められた技術士の業務又は技術領域に関する知識。
WK7	社会における科学技術の役割と、当該専門分野内で技術士業務実践に関して確認されている諸問題の理解;技術士の倫理及び公共の安全への責任;技術士業務の経済、社会、文化、環境及び持続性への影響などの理解。
WK8	当該専門分野の研究文献における精選された知識の理解。

(2) 知識の理解と応用

技術士 PC 第 1 項における「…知識を理解し応用すること」とは、技術士の業務に必要とされる知識を、その原理や論拠にさかのぼって理解した上で、その業務の履行に適用できる能力を求めるものである。

2. 複合的な問題と複合的な業務

(1) 「Complex (複合的な)」

IEA PC において、「Complex (複合的な)」は、テクノロジストの「Broadly-defined (大まかに示された)」及びテクニシャンの「Well-defined (明確に示された)」に対し、最上級技術者たるエンジニアが担うべき問題や業務の難度を表す用語として使われている。これの解釈に当たっては、「複合的な問題」又は「複合的な業務」の定義が「IEA 卒業生としての知識・能力と専門職としての知識・能力」の 4.1 と 4.2 に与えられている (表 4、表 5) ので、これらを参考にする。

表 4 複合的な問題の定義

知識・能力の項目		複合的な問題
定義		複合的な問題とは、以下に示す特性のうちWP1を含み、加えてWP2からWP7まで及びEP1とEP2の中のいくつか又は全てを含む問題である。
WP1	求められる知識の高さ	WK3、WK4、WK5、WK6又はWK8のうち一つ以上の、基本に帰り原理に立った分析アプローチのできるレベルの、高度の知識なくしては解決し得ない。
WP2	要求事項相互間の矛盾の程度	広範囲な又は相対立する、テクニカルな問題、エンジニアリング問題 <sup>1)</sup> 、及び他の問題を含んでいる。
WP3	求められる分析の深さ	明白な解決策がなく、適切なモデルを考案するための解析に、抽象的思考と独創性が求められる。
WP4	問題に対する熟知度	めったには直面しない問題を含んでいる。
WP5	基準適用の可能性	専門の業務領域の基準や規範で成し遂げられる問題の範囲を超えている。
WP6	利害関係者の関与範囲と、それぞれの要求の相反度合	広く異なる要求を有する多様な利害関係者の集団を含む。
WP7	結果	様々な面で重大な結果 <sup>2)</sup> をもたらす。
EP1	相互依存性	多くの構成要素又は下位の問題を含む高度な問題である。
EP2	判断	決定に当り判断力を要する。

【解説者注】 1) 「テクニカルな問題」は技術的な問題を、「エンジニアリング問題」は技術的な要素に加えて経済的な要素、社会的な要素等が一体となった問題を意味する。

2) 「様々な面の重大な結果」とは、第三者、社会及び環境へ及ぼす結果を含む。

表 5 複合的な業務の定義

知識・能力の項目		複合的な業務
定義		複合的な業務とは、以下に示す特性のいくつか又は全てを含む業務やプロジェクトのことである。
EA1	資源の範囲	人材、資金、機器、材料、情報技術などを含む多様な資源の使用を必要とする。
EA2	相互作用の程度	広範囲な又は相対立する、テクニカルな問題、エンジニアリング問題、又は他の問題の間の相互作用で発生した重大な問題に対する解決が求められる。
EA3	革新性	エンジニアリングの原理や研究ベースの知識を、新奇な方法で創造的に使用することに関わる。
EA4	社会及び環境に対する結果	その予測や軽減が困難な状況下で、重大な結果をもたらす。
EA5	熟知度	原理ベースの取組をすることによって、過去の経験を超えて広げることができる。

【表 2～表 5 の IEA GA と PC に係わる部分の引用文献】文部科学省 平成 22、23 年度 先導的の大学改革推進事業「技術者教育に関する分野別の到達目標の設定に関する調査研究」報告書の（参考資料）国際エンジニアリング連合「卒業生としての知識・能力と専門職としての知識・能力」（同調査研究の一環として行われた、「IEA Graduate Attributes & Professional Competency Profiles」改定 2 版の和訳）から引用し、それに、同第 3 版（2013 年 6 月改定）による改定部分を加筆しその他の修正を加えた。

## (2) 複合的な問題と複合的な業務

「複合的な問題」と「複合的な業務」は、IEA PC において次の表 6 のように使い分けされている。

表 6 複合的な問題と複合的な業務

IEA PC (現英文)	文科省委託翻訳	技術士 PC の用語	IEA PC で使用されている項目
<u>complex problems</u>	複合的な問題	複合的な問題	3.問題分析、4. 解決策のデザインと開発
<u>complex activities</u>	複合的な活動	技術士の業務 (= 複合的な業務)	5.評価、6.社会の保全、9.業務のマネジメント、12.判断、13.決定に対する責任

- 「複合的な問題」とは、技術士の業務 (= 複合的な業務) を通じて解決を図るべき対象/目的とする問題を指す。これに対し「複合的な業務 (技術士の業務)」は、この問題の分析・解決策の提案を含むあらゆる種類と段階の業務 (前述の「まえがき」参照) を指す。
- 表 6 の最下欄に示す IEA PC の 5 つの項目に該当する技術士 PC の規定 (3.マネジメント、4. 評価、5. コミュニケーション及び 7. 技術者倫理) に述べられる「(技術士の) 業務」は、既に「1.知識 (1) 技術士が専門とする技術分野 (技術部門) の業務に必要な専門知識」で述べたように、技術士法の定義によるものであるが、技術士が国際的なエンジニアの同等水準の技術者とされることから、その業務は「複合的な業務」を含むものとする。

### 3. 問題解決

#### (1) 問題分析からその解決策の提案に至るプロセス

問題分析から解決策に至るプロセスは次のとおりである。



解決策の提案又は改善は、このプロセスにおいて、問題の内容明確化・分析から、解決選択肢の検討、評価と判断を経て、解決策の提案又は改善の完了に至る一連の要素の全てに関し一定の力量をもって始めて満足できる成果が得られるものである。

#### (2) “Design or develop solutions” の解釈

“Design” 能力は、エンジニアに特に求められる重要な能力とされている。それに相当する語として技術士 PC は「提案し又は改善する」を用いている。

“Design” の内容は、IEA「卒業生としての知識・能力と専門職としての知識・能力」 3.3 に例示として次のように定義されているので、参考にする。

- 1：設計又は計画作成に対する要求事項を特定し分析して、詳細な要求事項を述べる仕様書を作成する
- 2：問題に対する検討に値する一連の解決策、又はプロジェクト実行の進め方をまとめる
- 3：要求事項に対する実現性のある解決策及び要求事項の範囲外への影響を評価する
- 4：選んだ選択肢の設計を実行し完成する
- 5：実施のための設計文書を作成する

また、“Design and development” について、ISO 9000 品質マネジメント・シリーズでは、表 5 にあるように定義されているので、参考にする。

表 7 ISO 9000 シリーズにおける “design and development” の定義

原英文 (ISO 9000 Quality management systems – Fundamentals and vocabulary 3.4.4)	和 訳 (JIS Q 9000)
<p><b>design and development</b></p> <p>set of processes that transforms requirements into specified characteristics or into the specification of a product, process or system.</p> <p><b>Note 1</b> The terms “design” and “development” are sometimes used synonymously and sometimes used to define different stages of the overall design and development process.</p>	<p>設計・開発</p> <p>要求事項を製品（筆者注：サービスを含む）、プロセス又はシステムの、規定された特性又は仕様書に変換する一連のプロセス</p> <p>注 1 “Design” と “Development” という用語は、同義語として用いられることもあり、また、“Design” と “Development” の全体のプロセスの中で、その業務段階を区分する用語として使われることもある。</p>

### 4. マネジメント

- 業務のマネジメントは、業務の履行について計画し、実行し、検証し、必要な是正措置（計画の変更を含む。）を講じ、及び完成するプロセス（PDCA 原則）をとることを標準とする。
- マネジメントの管理対象は、業務の内容/範囲（スコープ）、進捗、コスト、要員、品質及び必要

な場合は環境、安全、コミュニケーションやリスクのマネジメントを含む。

- マネジメントにより、当該業務の時間、コスト、品質、リスク対応等に関する要求事項及び当該業務（設計、生産管理、施工管理等）の対象とする製品、システム、施設、プロジェクト、サービス、工程等の特性（機能、品質、安全性、美的要素及び経済性を含む。）に係る要求事項を確実に満たすことを目指す。
- マネジメント・システムに係る認証制度をもつ国際規格の代表的な例として、次のものがある。
  - ① 「ISO 9001 品質マネジメントシステム」： 狭義の品質管理の他に、組織、要員、外注等の管理を含む総合的なシステム。日本では、これをそのまま翻訳し「JIS Q 9001」とされている。
  - ② 「ISO 22000 食品安全マネジメントシステム」： 食品の安全のために重要なハザード（危害）を明確にし、評価し、管理するシステム。
  - ③ 「ISO14001 環境マネジメントシステム」： 企業や団体等の組織が環境方針、目的・目標等を設定し、その達成に向けて取組むための組織の計画・体制・プロセス等からなるシステム。日本では、これをそのまま翻訳し「JIS 14001」とされている。

## 5. 評価

### (1) 結果、成果及び波及効果

- 「技術士 PC 4. 評価」に述べる「業務遂行上の各段階における結果、最終的に得られる成果やその波及効果を評価する。」において、「結果」は英語の“Outputs”に、「成果」は IEA PC における“Outcomes”に、また「波及効果」は IEA PC における“Impacts”に該当する。
- 設計段階の結果は、製品等（製品、施設、システム、工程及びサービスを含む。）の特性を規定する設計書、図面、仕様書等からなる。また、設計に基づいて実現される製品等も結果である。
- 製品等が使用される段階で直接的に発現される便益が成果である。さらに、その成果から波及効果が生じる。波及効果にはプラスとマイナスの側面がある。

### (2) 結果の評価

設計及びその実現の結果は、製品等の特性（性能、使用性、安全性、環境適合性、耐久性、経済性、修復性、美観等）に係る要求事項の満足度/達成度について評価される。設計においては技術的実現性も評価要素とされる。

### (3) 成果及び波及効果の評価

成果は、製品等が直接に対象とする受益者にもたらす効果の目標に対する達成度（予測又は実績）を評価する。波及効果は、結果及び成果が 2 次的に及ぼす影響を、正と負の両面から評価する。成果及び波及効果の評価は、標準として、事前、中間、事後のそれぞれの段階で、選択肢の優劣の判断、業務の省察・見直し及び将来の類似業務への教訓学習のために行なう。その主要な評価基準は、妥当性(Relevance)、効率性(Efficiency)、目標達成度(Effectiveness)等である。

### (4) 業務段階と、結果、成果及び波及効果並びに評価との関係

以上述べた業務段階と、結果、成果及び波及効果並びに評価との関係は図1に示すとおりである。

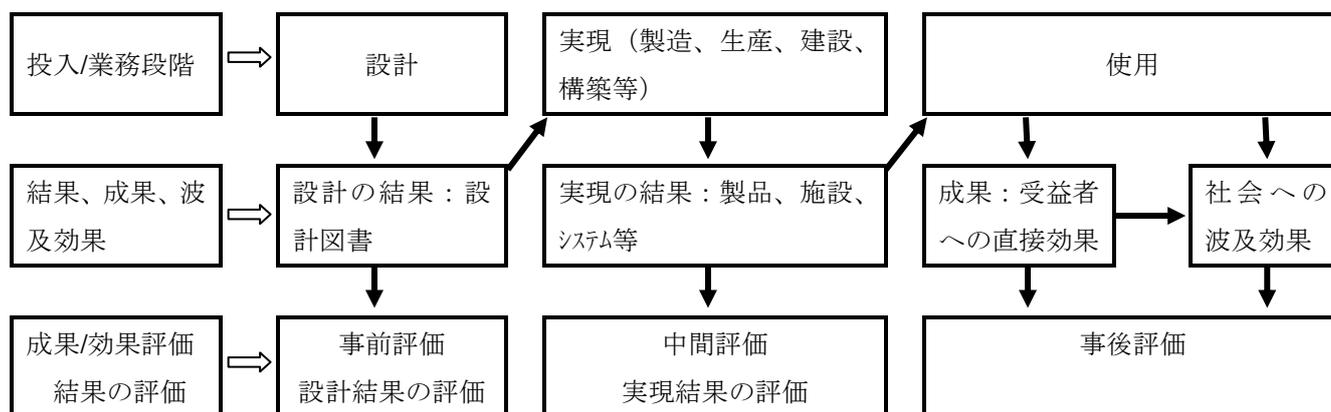


図1 投入/業務段階と、結果、成果及び波及効果並びに評価との関係

## 6. コミュニケーション

- 技術士業務の履行に当たり、共に働く者、雇用者、依頼者又は公衆との間で明確かつ効果的な意思疎通（コミュニケーション）を行う能力が求められる。
- コミュニケーションの主な内容は下記のとおりである
  - ① 論文、報告書、設計書等の文章作成、説明又は発表、
  - ② 業務に関する報告又は指示の口頭又は文書による授受、
  - ③ 情報・意見交換、討議等
- 海外関係の業務に携わるためには、一定水準の語学（多くの場合英語）力が必要である。

## 7. リーダーシップ

「リーダーシップ」に関し、IEA PC は直接言及していない。また、「IEA 卒業生としての知識・能力 (IEA GA)」は、「WA9.個別活動およびチームワーク」において次のように簡潔に規定している（下線部分がリーダーシップに関する記述）。

個別に、また、多様性のあるチーム又は多専門分野の要員が参加する場合を含むチームの一員又はリーダーとして、効果的に役割りを果たす。

このような IEA PC 及び IEA GA の規定に対し、「技術士 PC」は、技術士のリーダーシップとしての能力を重視し、「どのように役割りを効果的に果たすべきか」を具体的に述べている。すなわち、「明確なデザインと現場感覚を持ち、多様な関係者の利害等を調整しとりまとめる。特に、海外業務では、多様な価値観や能力を有する現地関係者の協力を得る。」という主旨である。

IEA PC は、リーダーシップに直接言及していないが、これに関連する規定として、「EC9. エンジニアリング活動のマネジメント」において、次のように規定している。

一つ又は複数の複合的な活動の一部又は全体をマネジメントする。

この規定自体は極めて簡潔なものであるが、チームによる業務履行のマネジメントが適切な「リーダーシップ」を必要とすることは明らかである。業務のマネジメントは、「4.マネジメント」で述べたように、業務の範囲（スコープ）、進捗、コスト、要員等を対象に、計画、実行、検証及び必要な是正措置（計画の変更を含む。）をマネジメントし、業務を完成することである。業務をチームで履行する場合は、チームのリーダーは、多くの場合多分野にわたる要員を統率しこのマネジメントを責任をもって遂行しなければならない。

## 8. 技術者倫理

- IEA PC における「6.社会の保全」と「7.法と規則」の規定は、一般に技術者倫理の重要事項と認識されている。また、「13.決定に対する責任」は、技術士がその職務に関わる決定について顧客、雇用者又は公衆/社会に対し応分の責任をもつことを意味し、その守るべき倫理（行動原則）の基本をなすものである。これらの項目は、表 2 に示すように、「技術士 PC 6.技術者倫理」の 1)から 3)にそれぞれ対応する。
- さらに、「8.倫理」の規定は、「倫理的に行動する。」と極めて簡潔な表現であるが、上述の事項を除く雇用者、依頼者や同業技術者に対する行動原則を意味すると考えられる。これに相当する部分は、「技術士 PC」では、「6.1)」の末尾の「…技術士としての使命、社会的地位及び職責を自覚し、倫理的に行動すること。」であり、また「6.3) 業務履行上、関係法令等の制度が求めている事項を遵守すること」における「事項」中の「技術士法の定める義務」と「技術士倫理綱領」に含まれる。  
「技術士倫理綱領」は上述の全ての事項を包含し、また IEA 倫理規程とも整合し、「技術者倫理」として体系的に整えられ認識されているものである。
- 技術士 PC に定める技術士の責任は無限のものではない。技術士は、事前に、雇用者又は依頼者との間で、自分の立場及び業務範囲、すなわち責任をもつ範囲を明らかにした上で、その範囲における決定に対して責任を負わなければならない。